

平成 30 年度保健衛生推進員会連合会総会及び研修会 アンケート

結果 回収 68 枚（回収率 58. 6%）

参加者数 129 名（推進員 105 名 ・ 理事 24 名）

1. 講演はいかがでしたか？

- ・とてもよい 55（80. 9%）
- ・よい 11（16. 2%）
- ・選択肢なし 2（ 2. 9%）

<理 由>

★とてもよい

- ・エンディングノートをつけておきたい。
- ・家族との関係や関わり方も考えるチャンス頂きました。
- ・荘内病院緩和ケアを受けた義父の事を思い出しました。
- ・今まで本気で、夫や自分のもしもの時の医療や療養の事を考えていなかったもので、夫と二人暮らしの現在ですが、同じ鶴岡市に住んでいる長女、次女と話す機会を作りたいと思いました。
- ・最期のことはまだだと思っていたが、準備は必要。良いきっかけになった。家族と話し合いをしたい。
- ・もしものとき、いつ来るかわからないから、しっかり、早めに家族と話すきっかけにしたい。
- ・和泉先生たちに助けられている方たちがいるということを知ることができ、死と向きあうむずかしさ、大切さを感じました。
- ・普段思っていたことですが、実感しました。
- ・お話も上手でしだし、とにかく自分がもしもの時、意志を家族に伝えておく必要があるなあと思いました。
- ・聞くだけでなく、この場で考える場、話し合う場を作っていただき、死について考えるきっかけとなった。何かの機会に家族で意志を伝え合う場を設けたい。
- ・緩和ケアをしながら何年も生きられるということは知りませんでした。
- ・最高でした。
- ・タイムリーな話題を学習できてとても良かったです。
- ・普段考えないお話でとても為になりました。緩和ケアという言葉をはじめて聞いて為になりました。
- ・ふだん聞けない話で良かったです。
- ・とても楽しかったです。普段話する事がないので良かったです。
- ・自分の体験談は何より心に残りました。

- やっぱり、本人がどうしたいか、というのは大切だと思った。そして、それを話し合っておくのも大事だと思った。
- 最期の事を改めて自覚でき、計画的に生きていきたいと思った。
- 自分の最期を考えるよいきっかけになった。
- 地域でも是非お呼びしたいと思いました。
- 講師の先生が、具体的な話でわかりやすかった。身近なことなのに考えたことがなかった。
- 自分が病気になった時、どうするか考える事が出来た。
- 病気になった時の自分の身の処し方を考えました。
- 死という重いテーマを明るく話す先生がさわやかでした。
- わかりやすく、気さくで楽しく研修が出来た。
- いつかは・・・と思ってはいても、なかなか話題にできないでいたので、いい機会でした。
- むずかしい話を率直に話してくれてとても良かった。
- 考える機会を与えていただき、ありがとうございました。
- 荘内病院で緩和ケアチームがある事は新聞等で知っていましたが、すばらしい和泉先生の事知って心強いと思いました。感謝します。これからも宜しくお願い致します。
- 緩和ケア専門の先生のお話しは体験談である為、身近な事として聞く事が出来ました。
- 良い機会がもてた。
- 明日は我が身。考えてゆきたい。
- 身近に、すぐそこに来てる時間を感じた。
- 今、病気で悩んでいるので、いろいろ考えさせられました。どうにかして家族を守るため、自分が健康になるため頑張っています。
- 通り一遍の資料を読み上げる講習とは違い、とてもステキな先生の実際のお話は、大切な事を考える事につながる、とてもよい講習だと思いました。つらい話しも明るく話してくれてうれしかった。
- とても講演の内容がわかりやすく今後の参考になりました。
- 自分自身の末期のこと、考えたことがなかったので考えさせられた。
- 考える良い機会になった。
- 40代、50代の時は、死を感じる事無く、生活におわれていたが、70才を迎え、親、夫の死に直面した時、自分の時は、と考えてしまいます。
- 私の両親、夫の両親共、4人「がん」で亡くなっているので、先生のお話し、自分も経験したこともあり、すごく聞きたかったです。
- 自分もそろそろエンディングノートを作ろうと思いました。
- もしものときを考えることができた。
- 今までの生き方、これからの終わり方を考える事ができた。
- 『死』・・・母のことを思い出しながら話を聞いた。いろいろ考えさせられたが、あっという間の時間だった。

- ・今まで考えたこともない議題でした。年齢もまだ50代だし、と他人事でしたが、いつ、何が起きるかわからない時代なので、これを機会に、少し考えてみようと思いました。
- ・家にもがん患者がいます。抗がん剤治療をして頑張っています。大変勉強になりましたもう一度考える時間をいただきました。がんと向き合う家族の立場に向き合い、主人とかわって行きます。
- ・タブーとされていたが、必ず来る事で家族を悩ませることなので、改めて考えました。
- ・一番考えなければならないのに、避けている話しです。改めて考えさせられました。
- ・今まで開業医に努めていて和泉先生のお名前は聞いた事があったのですが、今日講演を聞きまして、今回参加出来てとても良かったです。
- ・聞きっ放しではなく、適度に考えさせる時間があったこと。
- ・考えるきっかけとなった。

★よい

- ・考えたこともない話しが出来たので。
- ・暗くなりがちな死について、明るく楽しく話し合う事も大事であることを、教えていただきました。緩和ケアという言葉も勉強しました。
- ・楽しい研修会でした。
- ・寸劇
- ・あまり話し合う事のない内容を聞いた事。
- ・これからの自分の老いを考えました。子供達とこれからのこと話し合う。
- ・いろいろ考えました。荘内病院にこのような診療科があることを知りませんでした。
- ・内容はとても良かったです。マイクの声が聞きづらかった。もったいなかったです。
- ・体験談を交え、大変ひきつけられるお話しでした。医療だけではない、人の気持ちにふれ、あたたかさを感じられました。
- ・緩和ケアが大事な事だと思った。

★選択肢なし

- ・緩和ケアとは患者さんだけでなく家族のためにもいろいろ話せることを知り、心がやすまりました。

2. 印象に残ったことは何ですか？

- ・昨年主人をがんでなくし、再び緩和ケアをしたので思い出しております。大変良かった。
- ・120才まで元気で人生を楽しめたらいいネ。
- ・すべて
- ・治療、等について。本人の希望することを聞いて（聴いて）あげる。家族の希望ではない、ということ。
- ・薬以上の治療がある（あった）という場面。
- ・くよくよせず、笑って過ごせる様。

- 自分のもしもの時を考えてみよう。
- 先生の明るさとひきつける力！！
- 先生の元気の良く笑顔が素敵でした。良い勉強になりました。ありがとうございます。
- 荘内病院の和泉先生の話が感動的でした。荘内病院にこんなにいい先生がいらした!!
病院の評価が悪い、市民が日本海病院に行っている。考えて頂きたい！！
- 「治療と緩和ケアは並行して行う」という事。緩和ケアは癌の末期の治療とっていたので、びっくりでした。元気なうちに、家族で「もしもの時の事」を話し合っておくこと、大切だと思いました。
- 和泉典子先生の生きた講演、楽しく笑顔の講演、とても良かったです。ありがとうございました。女優さん方の寸劇も良かったです。
- 先生のお母さんの話。
- エンディングノートは知ってはいたが、自分が健康なので書いておこうとは思えない、が、話し合いはしてみようと考えてます。
- もしもの時のことは考えていませんでした。これから考えようと思います。ワークシートに書こうと思うと、中々、頭に浮かびませんでした。
- 親の世代の事と考えていたのですが、いざ、自分に何かあったら、と考えるのは、難しかった。大切な人に伝えておきたい事とか・・・。
- 医師のガン患者との関係。
- 死を考えること・・・案外さけていたと思うので。
- 最期を考える！ことの大事さ。
- 緩和ケアとは終末ケアではない。
- 緩和ケアの事。間違ってた覚えていたのにビックリ。
- 最期まで自分らしく生きる事を再認識しました。ありがとうございました。
- ふだん死に向き合ってた話す機会はなかったのですが、さっそく主人と話してみたいと思いました。
- 緩和ケアは末期治療ではない。治療は心身一体でなければならない。
- 知ってはいるが、誰でも死ぬということ。
- 先生が明るい。こんな先生に相談したい♥
- 生きること。
- 日頃から自分の将来のことを考えておくことが重要であると思いました。意思表示ができるうちに家族と話し合う。
- もっと具体的な例を知りたい。スタッフの人数。自分や家族の事等、真剣に考えていきたい。
- お話しの所々で目頭が熱くなりました。父・義兄のありし日々の事を思い出しました。
- 緩和ケアを考えることができた。
- 具体的で、なじみやすい話し方で気持ちが落ち着いた。
- 最後は本人の希望にしてほしいですね。

- ・「痛みを治すのは薬だけでない」という言葉に、「ああ～」と思いました。もちろん、薬は有難く大切なもの。でも、愛する人、ペット、家族の手も、痛みをとってくれる大切なものなのかもしれませんね。
- ・もしもの時を考えよう！！
- ・自分は、大きな病気のこと等についてかなり考えていた方だが、あまり考えていない人が多いのが現状なのだった。
- ・緩和ケアのもたらす効果が聞けて、自分が大きな病気になった時、ケアを受けようと思いました。寸劇を見て、家族の人と「自分のもしもの時」を話し合う機会をつくろうと思いました。
- ・緩和ケアのやり方。
- ・ガンの治療の種類。再発での治療のちがい。
- ・『心』を支えることが大切！！ということ。医師と家族共に・・・と思った。
- ・“自分のもしも”を少しずつ考えなければならぬと感じた。
- ・緩和ケアの大切さで残り人生が変わるようです。
- ・全部
- ・とても重いテーマなのに先生の明るさで話を聞けて良かった。
- ・家族間で、ざっとではありますが、最後の事を話し合った事はありませんでしたが、今回あらためて、とても良いお話が聞けました。ありがとうございました。(57才)
- ・アドバンス・ケア・プランニングの必要性。
- ・最期について、考えている人が多いという事に必要性を感じた。
- ・先生が若くて、ハキハキして気持ちよかった。
- ・死にもいろいろなケースがあるという事。ほとんど同じような事を考えていることがわかりました。
- ・25年前に夫を胃ガンで亡くしました。医療の進歩に驚いてます。
- ・自分が病気になったら、最後の過ごし方を家族に伝えることが大事だと思います。
- ・エンディングノートを書いた方がいい。自分のもしもの時を考えて家族で話し合う。
- ・緩和ケアの正しい知識を得られた事。
- ※30分くらいマイクの状態が悪く聞き取りにくかった。残念です。
- ・自分の意向を家族に言っておこう。タイミングが？
- ・自分のもしものとき、を考える事。
- ・淡々としたお話しで、あまり印象に残りませんでした。

3. 今後研修会で取り上げてほしいテーマ・内容・講師はありますか？

- ・健康のための楽しい食事。
- ・鶴岡市の病院なのに、荘内病院の職員の方、和泉先生に学んでほしい。人間的なあたたかさが先生にはありました。
- ・ピロリ菌の事を知りたい。
- ・和泉先生の話を又お聞きしたいです。死を明るい方向で話してもらえて良かったです。

- ・自分らしく最期を生きる事。
- ・この度の継続で良いように思います。
- ・この度のテーマに準するような講師でお願いしたい。
- ・自殺について。
- ・福祉。先進国の事情。
- ・もう一度うかがってみたい、と思いましたが、良く聞こえなかった。
- ・健康寿命を延ばすための方法。
- ・生活習慣病に対する対応の仕方や、接し方など教えてほしい。
- ・ストレスをためない為には。体にどんな影響があるのか。
- ・認知症について。
- ・老老介護、認認介護について。

4. 鶴岡市保健衛生推進員連合会活動についてのご意見、ご要望をお聞かせください。 ご自由にご記入ください。

- ・これからも皆様と一緒に活動したい。
- ・初めて推進員になりました。素晴らしい講演会があることを知り、いろいろ参加したいと思います。
- ・活動が素晴らしい！出来る限り協力しますので頑張ってください。
- ・会社などのトラブルで退社してしまい、ひきこもりをしている人を持っている家族の対応等の仕方を、どのように対応したら良いか？等、勉強したいです。
- ・二年間楽しかったです。本当にありがとうございました。また、ご縁がありましたら、お会いしたいです。
- ・自分がまず健康でなければ活動ができないので、運動しながら、健康寿命を延ばせる様頑張りたい。
- ・多種にわたって活躍なさっている理事、役員（代表者）に脱帽です。
- ・今までのようで大変良い。（事業も全般）
- ・せっかくの講演でしたが、マイクの具合が悪く聞きづらかったです。
- ・笑いのある会にしてほしいです。
- ・良い活動だと思います。長く続けてほしい。
- ・身近な病気や、これから暑くなる為の対策等。
- ・最初、マイクが悪いのか聞き取れなかった。
- ・御苦労様でした。
- ・色々な意味で勉強になりました。
- ・チャレンジデーに参加してもどこに報告するのかわからず、戸惑ってしまいます。市の広報などに載せていただきたいと思います。